

第1回 苫小牧市総合計画第7次基本計画策定市民検討委員会

議事要旨

【開催日】 令和4年5月27日（金）15時30分～17時00分

【場 所】 苫小牧市役所 本庁舎9階 議会大会議室

【出席者】 石森会長、片石副会長、大岩委員、酒井委員、谷岡委員、
西川委員、星野委員、本間委員、松原委員、宮嶋委員

===== 議事内容 =====

1 開会

2 市長から委嘱状交付

3 市長挨拶

4 委員紹介、事務局紹介

5 委員会の設置目的

<事務局より説明>

～ 質疑無し ～

6 会長、副会長の選出

会長に石森委員、副会長に片石委員を選出

●会長挨拶

●副会長挨拶

7 議題

(1) 苫小牧市総合計画とは

<事務局より説明>

(2) 苫小牧市総合計画第7次基本計画骨子案について

<事務局より説明>

(3) 意識調査アンケートについて

<事務局より説明>

(4) 策定スケジュールについて

<事務局より説明>

《委員からの質問・意見》

●A委員

今回の話を所属団体に持ち帰り、意見を次回の検討委員会で出したい。

個人的には、SDGsに注目している。総合計画がどのようにSDGsに結び付くのか、市民や企業に分かりやすい形で示されるとよい。

●B委員

平成30年に基本構想ができたが、今回は基本計画を新規で策定するのか、見直しをするのかどちらか。

資料3を見ると、備考欄に主な取組の新規追加や取組内容の見直しなど記載されている。今後、この委員会で協議をして進めていくということか。

●事務局

市内部で策定作業を進めていく。その際に、委員からの意見を踏まえて、この骨子案に肉付け作業を行い、素案とする予定。

基本構想は変えないが、基本計画は新たに作ることになるので、そこに反映すべき内容や意見をいただきたい。

●B委員

私は生涯学習の推進と文化芸術の振興というほうがメインになるので、これから苦小牧の文化、芸術の活動というところを考えながらお話をしていきたい。

●C委員

基本計画の、令和5年度から9年度までを策定中ということだが、これについては、第6次での計画の進捗などを見ながら、これをさらに推し進めるという考え方でいいか。

●事務局

6次計画の検証をしている。今のところ、90%程度が目標をおおむね達成となっているが、目標を下回っている取組も中には出てきている。新たな取組を追加して強化していくもの、見直しをかけながら実施していくべきもの、一旦中止して新たなものを生み出していくべきもの等々、庁内各部署で現在内容を詰めている。

基本構想は変わらないが、基本計画の部分は7次の新たな計画を作ることになる。

●D委員

資料が届くのが直前だった。委員として最低限の基礎知識を持ってから議論する必要があると感じている。基本構想は変わらないということであれば、この基本構想をまずはしっかりと委員が知る、学ぶ必要がある。6次計画までがどのように進んでいて、それに対して7次計画をどうしていくかという根本的な基礎知識等々をもう少し高めなければ、議論が難しいなというのが正直な感想。

●会長

基本構想は変えないということなので、それに縛られる部分は当然ある。基本計画を自由に作ってよいと言われても、やはり基本構想にフィードバックする。その辺は、何か分かりやすいような資料を出すなど、議論が進むようにしていただきたい。

●E委員

来月に市長選があるが、当選者が決まると、その公約と第7次の基本計画は整合性を取る必要があるのか。関係性はどのように考えればよいのか。

●事務局

総合計画は苫小牧市の長期的な方針をまとめた計画となる。基本的に誰が市長になっても変わらない計画という位置づけとなる。公約については、総合計画のどこの部分に当たるのか、またどのように施策に反映させるかは内部で検討する必要はある。

●E委員

基本的な考え方の中で、人が集う魅力あふれるまちというところに、コンパクトで魅力的なまちづくりという表現がある。いわゆるコンパクトシティをイメージしているのか。

●事務局

人口が減少していく中で、ある程度集約すべきものは集約していくコンパクトシティの考え方は、今後必要になってくるだろうということで、このような記載になっている。

●E委員

コンパクトシティは青森の例のように、必ずしもうまくいっているところばかりではない。その中で、コンパクトシティにはどのような類型があるのか、青森はなぜ失敗したのかなど、その中で、苫小牧はどんな想定をしており、今までの市長の政策と齟齬がないのか、そういうことを聞きたい。資料を作ってもらいたい。

●会長

コンパクトシティについて、苫小牧市のように細長いエリアでどのように実現を図るか、かなり知恵が必要。例えば、青森市のようにコンパクトシティに取り組んだ例があるが、成功した点、失敗した点をしっかりと見聞すべきである。

●E委員

中心部にまとめるという考え方もあるし、だんご型と言われているものもある。類型をまとめて、そのプラス・マイナスを資料でもらいたい。

●会長

コンパクトシティの思想は計画の中に入ると思うので、その分かりやすい基礎資料を事務局で作成してほしい。

●F委員

資料についてはなるべく早く頂ければ助かる。

●G委員

男女平等の分野からの参加となる、所属団体に持ち帰り、協議検討して第7次計画へ意見を提案したいと思っている。

コンパクトで魅力的なまちづくりと聞いたときに、今の説明を聞くまでは、高齢化社会の中で、わざわざ市役所に出てこなくとも、様々なことが地域で間に合うようになるのかなというぐらいに思っていた。コンパクトシティのメリットなど、一般市民にもわかりやすい資料があれば、検討するときに意見を言いやすい。

●H委員

医療分野から参加しているが、人口減少・高齢化が想定以上に進む中、高齢者の医療、健康づくりも含めて、医師会として頑張っていきたい。高齢者がかなり増える中で、市内の医療機関に勤める医師も高齢化してきている。医師会としても、若い医師をどう集めるかなども考えていかなければならない。

高齢者が増えることで、救急の面で現状のレベルを落としてはいけないわけで、救急に対しても、市のサポートをお願いしていきたい。

医療と介護が一体化して取り組んでいかなければならない。今ある医療介護連携センターをさらに充実させていくことなども大事になってくるので、市の援助、補助がなければ、なかなかやっていけないと思っているので、医師会として意見をまとめて出せればと思っている。

住み慣れたまちで最後まで生きられるという、健やかに暮らせるようなまちをつくれるように、医療の面からサポートしていきたい。まずは、6次計画のほうも勉強して、いろいろ意見を述べていきたい。

●会長

資料を早めに配布し、質問を受け付けて、それが検討委員会に出てくるように事務局と相談しながらやっていきたい。

苫小牧市は北海道の中で、札幌市、旭川市、函館市に次ぐ都市規模。産業、物流の面では、かなりのウェートを占めているまち。人口問題や高齢化など、様々な問題を考えていくと、魅力あるまちづくり、ほかの都市に負けないまちづくり、これがキーワードになると常々思っていた。魅力あるまちづくりの提案が少しでもこの計画の中に入ってくるとよい。特に観光、苫小牧で観光かと札幌に行くと言われるが、やはりそういうことも含めて、そこに住む人たちが魅力を感じるようなまちづくり、そういうものが少しでも入ればよいと思っている。

以前東京に住んでいたが、苫小牧は涼しくてよい。札幌は雪が多く夏は暑い。意外と医療も充実していると思う。あとは、羨ましく思われるような都市になる

かということ、女性が働きやすいとか、赤ちゃんから子育てがしやすいとか、いろいろあると思うが、できるだけ苦小牧市の魅力が増すような計画作りを目指したい。

●副会長

第6期の計画を見て、子育て支援の充実は既に掲載されているが進んでいない部分がある。例えば、子供たちの性格や個性が非常に多様化しており、集団の中にも、個別で関わる必要のある子どもの数が、保育園から小学校に至るまで、1クラスに必ず3分の1ぐらいはいると言われている。保育施設の中では、もう数十年、子どもの数に対する保育士配置基準も変わらず、障害児の子どもに対する加配も変わっていない。法人保育園協議会として、毎年のように障害児加配の充実のほか、5歳児健診を3歳児健診と同様な形で進めてほしいという内容の要望をしている。そういうところから、多様な個性を持つ子供たちが安心して、その個性を大事にしながら育っていく環境をつくっていくことにつながっていく。そういう細かいことも反映できるような内容になっていけばよいと思っている。

人口が予想以上に減少していると説明があった。この計画を立てるに当たっての想定推移があったが、5年後に向けて下方修正をした資料が別にあると思う。人口減少の推移など、可能ならば年齢別資料などもあると、苦小牧市の現状の想定がより見えやすいと思う。

●会長

必要な各資料について、早めに配布し、各推薦分野に対する意見も反映できるようなスケジュールで開催していきたい。

●D委員

第7次計画の重点プロジェクトと基本構想の整合性について聞きたい。

●事務局

重点プロジェクトは、第6次基本計画の中で18ページから掲げている。いろいろな分野が絡み、役所の中でもいろいろなセクションが絡む課題が多くなっている。例えば環境に優しいまちというところでも、市民生活分野から産業分野まで、いろいろな分野が関わっており、どこかの分野の担当課だけが取り組めばよいというものではなく、戦略的に取り組んでいかなければならないというところ。第6次計画においても重点プロジェクトとして掲げているが、今回も役所内で洗い出された課題を大きく3つのテーマに集約したところであり、前回同様に重点プロジェクトとして取り組む考え。

先ほど、コンパクトシティの話に青森の例があったが、青森は中心市街地活性化基本計画に基づいて、様々な機能を中心街のエリアにまとめようという考えで取り組んでいた。今、本市では立地適正化計画を作っているが、本市は東西に長いので、真ん中ではなくて、いくつかのポイントに集約していくという考えとなっている。このコンパクトシティも、様々な分野が一緒に取り組んでいかなければ

ばならない。基本構想に直接記載はないが、このような戦略的、横断的に取り組まなければならないことを、ここに掲げたいと考えている。

●D委員

それならば、基本構想も多少見直したらいいと思うが、そこは変えないと決定されているのか。

●事務局

今回の重点プロジェクトの環境に優しいまちという部分は、基本構想の自然と環境に優しいまちに含まれると考えている。ゼロカーボンという新しい概念について基本構想の中に直接記載はないが、これを基本計画に組み込むことは基本構想と矛盾しない。大きな木でイメージしてもらおうと、幹が基本構想で、枝葉が基本計画。大きな木の幹は変わらないが、新しい枝ができるようなイメージを持っていただきたい。

●D委員

時代の変化が早く、複雑化しているので、何年か前につくったものがそのまま通じるという世の中じゃないのははっきりしている。

●会長

やはり観光や産業で何をしていくとか、基本計画にも重点的には書いてないが、今はいろいろなことに取り組んでいるので、きっちり書いたほうがよいと思う。

それでは、今日はこの辺で終わりたいと思う。

8 その他

●事務局

<次回開催等について説明>

9 閉会